

第6回:Bull(ブール)文庫



キーワード：アール・ランキン・ブール、Bull 文庫、ウランダー屋敷跡

ぐすーよー、くーてんぐわーしだくないびーたしが、なーだあちさるふいぬながどろーしそーいびーん (みなさま、少しずつしくなってきましたが、まだ暑い日が続いています)。今月は琉球大学附属図書館にある「ブール文庫」と、文庫を寄贈したアール・ブールについてのお話ですよ〜 読んでね〜!



アール・ブール
『沖縄大百科事典』より)

●アール・ランキン・ブール (The Reverend Earl Rankin Bull, 1876-1974)

オハイオ州デイトン出身。ブールはボストン大学を卒業後、米国メソジスト監督教会宣教師として1911 (明治44) 年、布教活動のため沖縄にやってきました。前任者はヘンリー・B・シュワルツ師。ブールは、シュワルツ夫妻が住んでいた那覇市安里の通称ウランダー屋 (現在の「オランダ屋敷跡 (ウランダーやしきあと)」) に居住しました。

沖縄滞在ではベッテルハイム研究に努め、布教活動や研究資料の収集のかたわら、沖縄中学校 (現在の県立首里高校の前身) で英語を指導しました。また、伊波普猷、真境名安興、東恩納寛惇とも親交がありました。ブールの滞在は短期間に終わります (1913 年まで) が、沖縄とのかかわりは終生続きました。

●琉球大学附属図書館所蔵の Bull 文庫

ブールは 1958 (昭和 33) 年『Okinawa or Ryūkyū: 琉虬 :The

ブール夫妻の住んだ当時のオランダ屋敷 : Bull 文庫所蔵

Floating Dragon』を自費出版しました。そして同年 12 月、収集した沖縄関係資料を、開学 8 周年をむかえた琉球大学・志喜屋記念図書館へ寄贈しました。寄贈については、アジア財団 (The Asia Foundation) の援助、米国民政府 (The United States Civil Administration of the Ryukyu Islands) の協力がありました。

●オランダ屋敷跡 (ウランダーやしきあと)



同屋敷跡は、那覇市安里「金満宮」前の坂を上った一角にあります。現在は住宅が建っており、かつてのお屋敷のおもかげはなく、那覇市が設置した説明板で確認できるのみです。

ブール文庫の所蔵する写真資料や解説は、琉球大学附属図書館ホームページの「文庫・コレクション案内」「Bull 文庫」で見ることができます。大正時代の郷土の姿を写した「ガラス版写真」は特におすすめ! ぜひごらんください!
(NK)

参考文献

伊佐眞一『アール・ブール 人と時代』伊佐牧子、1991
豊朝朝美「文献紹介：幕末の異国船来琉と当時の琉球の状況①」『琉球大学附属図書館報 vol.34』PP. 6-7
琉球大学附属図書館、2001
琉球大学附属図書館アール・ブール文庫コレクション
沖縄大百科事典刊行事務局編集・発行『沖縄大百科事典』1983

オランダ屋敷跡 (筆者撮影) : ブール (立っている男性) と夫人。説明板の丸枠内写真は、Bull 文庫の「ガラス版写真」に載っています。



読書するシュワルツ師

